

活動の概要とその特色

2022年度の専任スタッフは上田直弥助教の1名である。2022年度は栗原麻子文学部長が室長となり、兼任として文学研究科福永伸哉教授、同高橋照彦教授が業務を担った。また2022年度の秋からは弥生文化博物館館長の禰亘田佳男氏が特任教授として着任している。

大阪大学構内には多くの遺跡が存在しており、特に豊中キャンパスはその全域が待兼山遺跡として国の遺跡台帳に登録されている。また2009年度には吹田キャンパスにおいて遺物の出土があり、あらたに山田丘遺跡として遺跡台帳に登録されることとなった。また、大阪大学中之島センターでは、江戸時代の久留米藩蔵屋敷の発掘調査を実施した。こうした遺跡や遺跡から出土した遺物は、1950年に施行された文化財保護法の規定により国民的な財産・文化財として保護・活用をはかる対象とされている。大阪大学では、文化財保護法の規定に基づき、キャンパス内の遺跡の保全と建物計画などの調整を行うために、全学委員会として埋蔵文化財調査委員会を設置しており、その委員会の指導の下、埋蔵文化財調査室が構内遺跡の調査にあたっている。

2022年度は、吹田・豊中キャンパスを中心に建物の改修および耐震補強・新設工事等が引き続き多く実施された。その対応として、発掘調査、工事着手前の試掘および立会調査は以下に報告した件数を実施している。また、調査で発見された出土品については、洗浄、接合、実測等の整理作業をすすめ、2021年度には成果報告として『埋蔵文化財調査室年報6』を刊行した。さらに大阪大学総合学術博物館修学館3階にて公開している出土品の解説動画の作製、大阪大学21世紀懐徳堂が主催するアウトリーチ活動にも力を注ぐなど、コロナ禍の中でも精力的な活動を実施している。

現在の組織

教授 2(兼任2) 特任教授 1 助教 1

教授：福永 伸哉(兼任)、高橋 照彦(兼任)

特任教授：禰亘田佳男

助教：上田 直弥

組織の活動

1. 発掘調査

以下の埋蔵文化財調査を実施した。

・吹田地区

4月13日	医学部史料館新営工事に係る埋蔵文化財調査
6月7日	医学部附属病院統合診療棟等新営その他工事に係る埋蔵文化財調査①
7月20日	医学部附属病院統合診療棟等新営その他工事に係る埋蔵文化財調査②
7月30日	ライフライン再生（高圧ケーブル更新）工事に係る埋蔵文化財調査
8月25日	微研感染症共同実験棟新営その他工事に係る埋蔵文化財調査
11月5日	ライフライン再生工事（給水施設改修）に係る埋蔵文化財調査①
11月9日	ライフライン再生工事（給水施設改修）に係る埋蔵文化財調査②
11月14～21日	核物理研アルファ線核医学治療社会実装拠点新営工事に係る埋蔵文化財調査
11月14日	山田丘配水管布設工事（吹田市）に係る埋蔵文化財調査①
12月2日	山田丘配水管布設工事（吹田市）に係る埋蔵文化財調査②
12月5日	ライフライン再生工事（給水施設改修）に係る埋蔵文化財調査③

- 12月7日 ライフライン再生工事（給水施設改修）に係る埋蔵文化財調査④
1月10日 山田丘配水管布設工事（吹田市）に係る埋蔵文化財調査③
1月12日 ライフライン再生工事（給水施設改修）に係る埋蔵文化財調査⑤

・豊中地区

- 10月19～21日 共創環境形成拠点新営その他工事に係る埋蔵文化財調査
12月19日 同位体科学総合棟新営その他工事に係る埋蔵文化財調査①
12月26日 同位体科学総合棟新営その他工事に係る埋蔵文化財調査②
1月23日 同位体科学総合棟新営その他工事に係る埋蔵文化財調査③
2月3日 基礎工学部系統市水埋設配管漏水対応工事に係る埋蔵文化財調査
3月25日 同位体科学総合棟新営その他工事に係る埋蔵文化財調査④

・その他地区

- 4月1日～5月31日 中之島センター改修その他工事に係る埋蔵文化財調査
9月5日 豊中職員宿舎（緑丘宿舎）カーブミラー取付工事に係る埋蔵文化財調査

2. 広報・埋蔵文化財の公開

令和4年度懷徳堂古典講座「『日本書紀』を読む」講師

大阪府立北野高等学校出張授業 講師

第23回みのお遺産ウォーク 講師

NPO 法人 大阪府北部コミュニティカレッジ「ONCC 総合文化を学ぶ科」講師

中之島センターにおける久留米藩蔵屋敷跡資料の展示

今後の課題

大阪大学構内における開発と埋蔵文化財の保護の両立をめざし、施設部をはじめとする関係部局と密接に連絡をとり、円滑な運営を目指す。しかしながら、ライフラインの更新や新規建築をはじめとした開発件数は急増の傾向にあり、2022年度におこなわれた埋蔵文化財調査は22件を数えるなど依然として多く、そのすべての調査や事前の調整業務、調査後の遺物整理や報告書刊行を専任教員1名で対応することには困難が生じつつある。調査量の増大に効率良く対応できる体制をつくることが急務である。

待兼山遺跡は近年の調査成果により、これまで知られていた弥生時代から古墳時代のみならず、古代、中世、近世各時代の遺構・遺物の様相が判明しつつある。また定期的に行っているキャンパス内の表面調査では、極限科学研究棟（豊中キャンパス）付近における埴輪片のほか、修学館の裏手で複数の須恵器が確認されるなど、埋蔵文化財の散布が確認されており、引き続き工事に際しては細心の注意が必要である。発見された膨大な出土品の歴史的意義についてはいまだ不明な点が多く、今後の調査や整理事業では、こうした資料の意義を学術的に解明することを通じて、地域の歴史復元への貢献を果たして行きたい。

吹田キャンパスに所在する山田丘遺跡およびその周辺に関しては、継続的な調査の実施により、キャンパス造成以前の旧地形および地層の堆積状況を把握しつつある。今後も調査を継続することにより、キャンパス内における埋蔵文化財包蔵の状況を正確に把握し、文化財保護法と施設マネジメントの円滑な調整が図れるよう努めたい。

大阪大学埋蔵文化財調査室への市民講座、出張授業などの依頼は増加傾向にある。キャンパスに眠る文化財の価値を地域に発信するためにも、大阪大学21世紀懷徳堂や総合学術博物館をはじめ、近畿地域を中心とした文化財関係機関と密接に連携し、学校教育、市民講座の場を活用してアウトリーチ活動をさらに進めていく予定である。

（上田 直弥）